



FIGU 特別公報



不定期刊行物

インターネット : <http://jp.figu.org>E-メール : jp@figu.org

第 9 卷 第 2 号

2003 年 2 月

地球の国家権力者と人類に向けて

とりわけジョージ W. ブッシュ（アメリカ合衆国）、アリエル・シャロン（イスラエル）、サダム・フセイン（イラク）、ヤシル・アラファト（パレスチナ）、オサマ・ビン・ラディンおよびそのシンパと支持者たち、しかしまた戦争とテロを助長し、支持し、あるいは自ら何らかの形で遂行するその他すべての誤れる無責任な国家権力者やテロリストたち、ならびにそのシンパや熱狂的な賛同者たちに向けて。

約 1 万年来、地球上に平和が存在したのはきっかり 250 年に過ぎず、それ以外のすべての時代は不名誉にも、ありとあらゆる種類の血塗られた戦争と革命とテロ行為によって歴史が占められている。これらの時代には毎年世界中のいろいろな国で戦争行為が数多く記録されたが、それらは全部で数億人もの人間の命を奪い、地球の人類に筆舌に尽くしがたい苦しみを与え、世界の至る所で途方もない破壊を引き起こした。そして 20 世紀にはなんと 1914 年から 1918 年と 1939 年から 1945 年に 2 度も世界大戦が猛威をふるったのである。第二次世界大戦の狂気のクライマックスは、アメリカ軍が 1945 年 8 月 6 日に日本の広島に原爆を投下したことによって演出された。このとき約 25 万人が殺され、生きながらえた犠牲者にも多くの後遺症が現れた。それから 3 日後の 1945 年 8 月 9 日、アメリカ人は引き続き日本の長崎にも原爆を投下して、同じように壊滅させた。公式発表によると、このとき約 7 万人が殺された。ドイツでもアメリカ軍は同様に人命を軽視した犯罪的なやり方で、傷病兵都市ドレスデンを恐るべき空爆によって完全に廃墟としたのである。これは 1945 年 2 月 13、14 日に「落雷作戦」の名で実行された。ドレスデンの人口は 1939 年には 63 万人を数えたが、英米軍の 3 度に及ぶ非人間的で無責任な爆撃により無数の犠牲者が出た。当時ドレスデンには住民のほかにもシュレージエン地方からの難民約 50 万人や、多くの強制労働者および兵士が滞在していた。公式発表によれば最初これらの空襲で 2 万 5000 人が殺されたことになっていたが、それは真実ではなかった。あとで死者の数は 25 万人に修正されたが、その後再びわずか 3 万 5000 人に減らされた。その理由は通例のように万事を些事に見せかけるためであり、広島や長崎の場合もそうであった。というのも、実際には死者の数ははるかに多かったからである。これについては、イギリス軍とアメリカ軍がドレスデン全土にどれだけの爆弾を投下したかを考えさえすればよい。すなわち、772 機のイギリスの爆撃機が 2 度の夜間爆撃で 1477.7 トンの爆弾と炸裂弾のほかに、1181.8 トンの焼夷弾を投下して恐るべき火炎の嵐と弾幕を生み出し、何者もこれから逃れることはできなかった。アメリカ軍が投下した 643.1 トンの焼夷弾が生み出した火炎の嵐と弾幕についても同様である。それに続く 6 度の昼間爆撃で、アメリカ軍はさらに 3767.1 トンの炸裂弾を投下した。これらの爆撃機編隊は、「空飛ぶ要塞」の異名を取った 311 機のボーイング爆撃機からなっていた。完全に壊滅した地域は 12 平方キロメートルに及び、さらに 15 平方キロメートルの地域が重大ないし極めて重大な破壊を被った。

上に挙げたアメリカ人の残虐行為は、人間に対する犯罪的な恐るべき策謀のほんの一部に過ぎない。というのは 20 世紀以前にも、ヨーロッパから多くの宗派分子や犯罪分子が移住し、アメリカが新しい国家として世界の中に入り込んでからというもの、アメリカ人はいつの時代も人間に対して多くの言語道断なことをしてきたからである。その事例はわざわざ探すまでもなく、アメリカインディアンがほぼ根絶やしにされたことを引き合いに出せば十分である。また、奴隷に対する非道な犯罪では、奴隷商人がアフリカで黒人を略

奪して奴隷としてアメリカに送った。その際、すでにアフリカにおいて、あるいは奴隷輸送船の中で何千という奴隷が拷問されたり、責めさいなまれたり、殺害されたりしたが、他方生存者はアメリカで最悪の奴隷生活を耐え忍ばなければならなかった。それどころか、彼らは「クー・クラックス・クラン」などの人種差別主義者によって体にタールを塗られて羽毛で覆われたり、拷問されたり、殺害されたりした。アメリカが奴隷時代に正規に奴隷牧場を営んでいたことは言うまでもない。そこでは残酷にも大量の奴隷女が選り抜かれた「絶倫男」に犯され、妊娠させられた。これは奴隷の子孫を作るために行ったものである。アフリカで奴隷狩りをするよりも安上がりだし、奴隷にした人間を苦勞してアメリカへ輸送する必要もなかったからである。何千もの奴隷が拷問されたり殴り殺されたり、海の上で病気や伝染病や飢えと渇きのために惨めにもたれ死んだ。しかしまた、アメリカの諜報機関による数え切れない秘密の策謀や殺人も忘れてはならない。彼らはこれまで世界中にテロを広め、そして今も広め続けており、自分自身の策謀やアメリカが普通に行っている実際の策謀について真実を語る勇氣を持ったすべての人間を殺害して黙らせるのである。この国は自称世界の警察を気取り、至る所で他国の問題に介入して確かな地歩を築いているが、本来全く出る幕ではないし、また、たいてい嫌がられている。こうした行為の中には、アメリカの世界制覇の欲望がはっきり見て取れる。この欲望のために良心の咎めもなく何百万という死骸が踏み越えられ、人間の血が流され、そして言いようのない苦しみと惨めさ、苦痛と困窮と破壊が生み出されたし、これからもそうである。こうしたすべてのことは際限なく続き、まだ終わりは見えない。

アメリカの俳優で、後に第40代アメリカ合衆国大統領になったロナルド・レーガンは、邪悪な戦争挑発者であった。第二次世界大戦では第33代アメリカ合衆国大統領ハリー S. トルーマンが日本に対する原爆攻撃を命じた。ベトナムにおけるアメリカの秘密作戦のために「アメリカ特殊戦争」とも呼ばれたベトナム戦争では、アメリカ軍により普通の人間ならば考えただけで恐怖に震え上がるような恐ろしい戦争犯罪が犯された。ほんの一例として、ミライ村の大量虐殺を挙げよう。第41代アメリカ合衆国ジョージ H. W. ブッシュ・シニアは、1991年にいきなり第一次ブッシュ湾岸戦争を始めたが、いまや第二次ブッシュ湾岸戦争が続こうとしている。今度は彼の責任感を欠いた、明らかに誇大妄想で並外れた馬鹿の長男ジョージ W. ブッシュが引き金を引く。この男は不遜と独善において万能の被造物を気取り、さらにひどいことには好戦的な振る舞いにおいてその生みの親を気取っている。しかもこの無責任で人命を蔑む大物気取りは、イラクで今にも核のシナリオを展開しようとさえしているのである。それによってまたもや何十万、いや何百万という人間が殺されるだろうし、そこからわずかに約3500キロメートルしか隔たっていないヨーロッパが、このような狂気によってひどい巻き添えを食うことは言うまでもなからう。こうしたすべては一体なんのためなのかというと、第1に、それはおそらくイラクの石油を手に入れるためであり、第2に、アメリカの権力を政治的、経済的、軍事的および宗教的な形で世界中に拡張するためである。しかしまた、明らかにイスラム教を撲滅しようとする観点も見落としてはならない。なぜならば、イスラム教はキリスト教の教派主義とは相容れないとされているからである。それゆえすべてはまたブッシュの宗教戦争ということになる。だが、まさに狂信主義のために判断力と理性を欠いた少数の気違いテロリストを別として、イスラム教徒もしくはムスリムがそのような戦争の理由をアメリカ人に与えたことはない。そして人類にとって犯罪的なこれらすべての策謀を、全人類は臆病にも傍観し、世界と人間に死や苦しみ、困窮や悲惨や苦痛、破滅や破壊をもたらす者たちの狂気と権力欲を打ち砕くための行動を何もしないのである。実にいろいろな国が、特にEU加盟国がブッシュの戦争の叫び声に声を合わせて吠えている。戦争拒絶に関する信頼と理性は、国連や安全保障理事会でも期待できない。なぜならば、これらも狼ブッシュと一緒に吠えているからである。それゆえ、戦争挑発者の戦争の策謀に対して自分を守ろうとするのは、少数の国の責任意識と理性のあるわずかの者だけであろう。しかし彼らの声は、戦争の雄叫びに唱和し、あるいはこれを単に支持する、不安に満ちた、臆病で無責任な者たちの声でかき消されてしまうのだ。これらの国家権力者とその仲間およびその他の支持者の無責任な雄叫びは純然たる不安と臆病に由来し、サダム・フセインのいるイラクは世界に対する脅威であ

るという考えに基づいている。しかし実を言うと、カウボーイ気取りのブッシュ・ジュニアのいるアメリカこそ、本当の危険と世界に対する脅威を体現しているのである。世界中で行われている最も大きく最も危険なテロリズムは、自らを万物の主、すなわち神と思いついでいる大統領を擁するアメリカから出ているからである。

ブッシュの戦争の雄叫びによって実際にイラクと戦闘が起きたなら、エノクの預言が完全に実現および成就し、しかもその結果、本当にすぐにも第三次世界大戦が始まるかもしれない。確かにこれに関する古い預言は、第三次世界大戦は最終的に2006年に勃発すると言っているが、この年が現代の暦に基づいて計算したものか、それともイマヌエルが誕生してから実際に経過した年数によって求めたものかは明言されていない。後者の場合だと2003年になる。別の預言も2011年に大規模な戦争が起こると言っている。しかし現在のところは2006年を考察の対象とすべきである。というのは過去数十年間に起きた軍事的および政治的な策謀はこの年を示唆しているからである。このためにすでに第三次世界大戦の明確な初期事象と呼ばれた幾つかの出来事があった。他方、無責任なアメリカ合衆国大統領ジョージ W. ブッシュの現在の策謀は、古くから預言されている「この世の終わり」が実際に切迫し始めることを示唆している。しかもそれはかつて例を見ないほど容赦ない戦争であり、核兵器だけでなく、生物兵器、放射線兵器、化学兵器も使用されるであろう。このような戦争について、古い預言は、地球の人類のおよそ3分の2が絶滅し、地球上にはほとんど生命が存在できないほど凄まじい破壊が行われると言っている。同じ預言はまた、そのような戦争にはかつてない規模で実際に全世界と人類が巻き込まれ、それゆえいかなる国家も国民もこれを免れることはできないと言う。ヨーロッパはアメリカと同様、戦争でほとんどが破壊され、人間はむごたらしい大量死を迎え、ごく少数の人間だけが生き延びるであろう。預言にはそう書かれているが、すべての主戦論者はこれらの預言を馬耳東風と聞き流し、嘲笑し、無視しているのである。そして実際に第三次世界大戦が地球を席卷することになれば、それはもっぱらあらゆる人間の命にも、自然や惑星の存続にも全く価値を認めない、若干の国家権力者およびそれらの仲間と支持者の無責任な狂気によって引き起こされるのである。これには以前の多くの権力者およびそれらのシンパと賛同者も挙げるべきである。彼らはすでに権力の座には居座っていないが、世界情勢が今日のように軍事的、政治的、宗教的および経済的な意味でおかしな状態になることに大いに寄与した。しかし今日それらは特に無責任な権力の亡者、主としてアメリカ合衆国大統領ブッシュおよびこれを熱烈に支持する仲間とその他の支持者、イスラエルのアリエル・シャロン、パレスチナ人のヤシル・アラファト、イラクの独裁者サダム・フセイン、そして不安と臆病から、自分たちが戦争を免れるためにはアメリカと連合しなければならないと信じているヨーロッパ諸国の無責任な責任者たちである。しかしアメリカやイスラエル、イラクやパレスチナ、そしてすべてのテロリストたちの罪により、第三次世界大戦は本当に起きるのである。そうなったら、すべての戦争挑発者のわめき声ものどにつかえて口に出ないであろう。

強大で邪悪な狼アメリカと一緒に吠えるすべての国家権力者どもは、その権力の座にふさわしくない。なぜならば、彼らは国民の幸福のためにも、真の平和のためにも働かず、際限のない不安と臆病から自分たちの誇大妄想や権力欲、憎しみや復讐欲のとりこになっているだけだからである。こうした連中は適当な時期に、すなわち彼らが地球と人類の上にこれ以上害悪や破滅や破壊をもたらすようになる前に、国民の手で解任されるのがよい。人類がついにそうした無責任な権力者や戦争挑発者などに対してみずからを防衛するために立ち上がり、彼らが最終的な破局を引き起こすようになる前に彼らを権力の座から駆逐するならば、これ以上の害悪や、これ以上の戦争とテロの狂気を防ぐ時間はまだある。人類には、彼ら自身と世界の没落および人類の記憶の中で最悪の出来事を防いで、古い預言を実現させないために、まだ最後のチャンスがある。というのも、すべてが正しい軌道に導かれ、人間が本当に理性を働かせるならば、預言は成就し得ないからである。しかしこの理性が人類の大多数によって用いられず、また彼らが権力者に道理をわきまえさせ、それらを解任して、理性的で責任意識のある勢力に国家運営を任せることがないならば、そのときは没落を免れない。

すべての中で最大の害悪をなしているのはアメリカである。なぜならば、世界の警察を自称したり、世界支配の野望を策したりするその驕りが、世界中に、とりわけアメリカ自身とその同盟者に対して憎しみとテロを招いているからである。アメリカが他人の争いに介入したり、他国に干渉したりすればするほど、すべてのアメリカ人やアメリカ的なるものに対する憎しみは大きくなる。こうしてオサマ・ビン・ラディンとそのテロ組織網アル・カイダが世界中で繰り広げているテロリズムも、アメリカに対する憎しみと復讐から生まれたのである。そしてこのテロの憎しみおよびそれと結び付いた復讐の作戦行動は、アメリカの憎悪と復讐欲に駆られた行動に完全に対応して、さらにエスカレートするであろう。アメリカのテロリズムと拮抗するこのテロリズムも同様に、第三次世界大戦に大きく寄与するであろう。なぜならば、すべてが救いようもなく互いに絡み合っているからである。それゆえオサマ・ビン・ラディンとその一味も排除されなければならないが、アメリカの軍事的なテロリズムによってではなく、理性によってである。しかしアメリカがおよそありとあらゆる形で途方もない軍備を整える一方で、他国にはこれを禁じ、もしそれらがアメリカの意向に沿わなければ、凶暴な軍事大国として戦争を強いるということのうちに理性はない。みずからは可能な限りの手段を用いてせつせと軍備を整えて、他人を抑圧し、隷属させ、爆撃によってすべてを破壊するというのは、実際に建国以来のアメリカの知恵のすべてであることは、これまでに何度も証明された。この国では平和を愛する少数者の意見は聞き入れられないのである。しかし不正が公正に優先され、死刑制度が厳然と存在し、多くの無実の人間までが処刑され、正義に関心のない国では、一体どうすることができよう。

事実は、アメリカが他国の争いに介入してそこで地歩を築き、引き続き世界の警察の役回りを演じ、全世界とすべての国民を併合して搾取しようとする限り、アメリカとその同調者や支持者に対する憎しみやテロ、報復攻撃や復讐行為はなくなるといってよいことである。平穏と自由と平和がやっと実現に向かうとしたら、それはアメリカが世界から撤退し、これまで軍事的、政治的、宗教的および経済的に支配してきたすべての国から消えてなくなるときである。アメリカはその世界支配の振る舞いを、世界の警察を演じなければならないという狂気とともに捨てなければならない。そしてアメリカは、国家運営および国民の中に戦争挑発的分子を容認しない方向に発展しなければならない。同じことはイスラエル、イラクおよびパレスチナ国家についても言える。シャロン、アラファト、そしてサダム・フセインも、G.W.ブッシュと同様に国家権力の座から外すべきである。これはまた、不正、売国、テロ、死刑、戦争、自殺命令、政治的暗殺、秘密情報機関による殺人、犯罪などに対して責任があり、自分たちの権力を乱用している他のすべての国家権力者にも当てはまる。犯罪的で、無責任で、権力欲に憑かれ、良心を欠き、戦争に挑発的で、臆病で、憎しみに満ち、復讐欲に駆られ、独善的な、誤れる国家権力者とその仲間らを現在の地位から駆逐するために、人類が一致団結して行動することのみが、長引けば長引くほど脅威が増す第三次世界大戦をまだなお阻止し得るといって保証を与えるのである。第三次世界大戦は、地球が誕生し、地球人が出現してからこのかた例を見ないほど恐ろしい形で死と破壊、困窮と恐怖をもたらすであろう。それゆえ地球人よ、君たちの無責任で、犯罪的で、背信的で、品位がなく不誠実な国家権力者を彼らの地位から放逐して、人間の幸福と生命のために、したがってまた自由と真の平和、そして惑星地球の存続のために責任を自覚して国家運営を引き受ける人間と入れ替えよ。そのような人間は地球上には非常にわずかしかないが、善意と、多少の判断力と、十分な理性および忍耐をもってすれば見つかる。いや、彼らを見つけ出し、国家運営の座に就かせなければならないのである。なぜならば、彼らだけが地球人と世界の実際の幸福と存続を保証するからである。そしてそのような人間だけが、全地球人の間に真の自由と真の平和と、本当の統一を創り出すことができるのである。そしてこれらの国家運営勢力は実際に謙虚で、無私で、誠実であり、そしてそうした役職に相応しくなければならず、またすべての人間、その他すべての生命形態の命、自然と惑星の存在を尊重しなければならない。クウェツツアルもすでに何年前、すなわち1988年12月31日の会見で同様のことを語ったが、以下に引用する。

クウェツァル

正式には君は2003年1月1日を過ぎてから、初めてそれ(エノクの預言)を広めるべきだ。それは君が地球の統治者に対して、直ちに世界中で政治的平和の道を選び進まなければ第三次世界大戦の恐れがあることを警告する声明も出すべき時だろう。その際に、君はこの大きな脅威が特にアメリカ、イスラエル、イラクおよびパレスチナに起因し、とりわけアメリカが最大の害悪であり、世界中のあらゆる国で軍事のおよび経済的に確たる地盤を築こうとし、それによって何よりも特にイスラム世界で強大なテロ組織が生まれる理由を作り出していること、またこれらのテロ組織は世界中で死と恐怖、破滅と破壊を広め、とりわけアメリカを標的にしているが、他の多くの国々も襲われることも示唆すべきだろう。しかしまたイスラエル、パレスチナもイラクのように、この邪悪なゲームに取り込まれ、戦争を挑発し遂行している張本人の中でも、すべての害悪に対して主な責任があるのは、すでに以前に言ったように、ジョージ W. ブッシュ、ヤシル・アラファト、サダム・フセインおよびアリエル・シャロンであろう。新しい世紀に入った後にすべてが改善する方向に向かわないならば、エノクの預言に従って、2006年に第三次世界大戦は避けられず、地球の人類の3分の2が命を失うだろう。その理由は、生物や化学および核や放射線を応用した途方もない殺人兵器が使用されるからである。それによって地球とその人類の上に、かつて類を見ず、また再び見ることのない破局が訪れるだろう。しかし地球人が理性を働かせて、すべての無責任な国家権力者とその信奉者や同調者を彼らの役職から追放し、自分たちの指導的な地位をひたすら人類の幸福と、したがってまた真の平和と本当の自由のために用いる、責任感のある人間と入れ替えるなら、地球人の理性はまだ勝利できるのだ。権力と独善を手にした無責任で犯罪的な分子と、戦争やテロを呼びかけている彼らの同調者は直ちに、とりわけ以前すでに私が挙げたアメリカ、イスラエル、パレスチナおよびイラクの無責任で、あらゆる人命を軽視する権力者は彼らの殺戮と破壊の狂気のとりことなる近い将来に、国民によって解任されなければならない。もちろん、無責任に権力を乱用している他の多くの国家の権力者も挙げることができようが、すべての災厄の真の張本人はアメリカ、イスラエル、パレスチナおよびイラクの権力者とその同調者である。

ビリー

未来の見通しは暗いが、しかし私は然るべき時間に自分の仕事をするつもりであり、2003年1月から始めよう。何人かの理性的な人間に教示できるのは間違いないが、大多数の愚鈍な人間や、世界の無責任な権力者はそれには含まれないであろう。だから私はすべての警告や啓蒙は無駄だと思う。というのも、誰がたった1人の人間が言うことに耳を傾けようとするだろうか。だから私はこれまで通り荒野に呼ばれる者であり、ごく少数の者だけがその声を注意して聞き、その助言に従うに過ぎないであろう。しかしたとえそうだとしても発言し、まさに訴えるべきすべてのことを世界に訴える必要がある。小賢しい者たちはいつものように愚かにも、そうした叙述や表明や説明は、いつも決まって害悪が迫ったときだけ行われたり、与えられたりするが、それ以外のときは全然語られないのだと声高に言うだろう。これは筋の通らない馬鹿げた言い草である。なぜならば、実のところ、それについては昔から繰り返し語られているからである。

以上が会見の抜粋であり、以下に次のことを付け加える。

地球人よ、ついに理性的になり、真の人生と向き合い、創造と自然の法則および掟に従って生きよ。そして権力欲や独善、憎しみや復讐欲などに駆られて人類を困窮と悲惨、恐怖と大量死に追いやり、そうして人間が達成した成果と自然および世界そのものを破壊する無責任で犯罪的な誤れる国家権力者を、人間に相応しいやり方で片付けよ。地球人よ、どんな宗教や人種や国民に属しているかに全くかわりなく、理性と愛において団結せよ。国民と全人類の幸福に反することに精を出している、恥知らずで犯罪的な国家権力者とテロリストを人間に相応しいやり方で消滅させよ。彼らからその専制的で、独裁的で、テロリズム的な権力

を剥奪して、彼らが二度と再び災厄をなしたり、人間と世界の上にこれ以上の死と破滅と破壊をもたらしたりできないように彼らを生涯追放せよ。誤れる者たちを排除し、地球の諸国民と全人類の指導を引き受け、それらの幸福と真の自由および本当の平和のために働いて、権力欲や独善や利潤欲に、憎悪や復讐欲や残虐性に、報復欲や戦争挑発や殺戮欲、そしてテロリズムに陥ることのない、人間の名に値する人間と入れ替えよ。時は迫っている。さもないと、地球が誕生し、人間が出現して以来あらゆる時代を通して起こった最もおぞましい出来事および墮落に関する古い預言の狂気が成就するのである。

セミヤーズ・シルバー・スター・センター、2003年1月30日、11時54分

ビリー

さらに重要な一言

1991年、アメリカ合衆国大統領ジョージ H.W. ブッシュ・シニアは、独裁者サダム・フセインを追放し、イラクをアメリカの保護領にする目的で、イラク国民とその指導部に対して戦争をしたが、見るも哀れに失敗した。新しいアメリカ合衆国大統領ジョージ W. ブッシュ・ジュニアは今やその復讐を果たそうとしているが、もちろんその背後では父ブッシュが策動し、その他の無責任な連中も手助けして、新たなイラク戦争もしくは湾岸戦争を扇動的、挑発的に煽っている。こうして今日、人間の命に一文の価値も認めない無責任なアメリカ人に引き起こされた戦争の予兆が蔓延しているのである。彼らは自分たちの先人と同じように、アメリカが世界の文明国の中で最も墮落した、国家、軍事、司法および経済の領域でテロを行う最低、最悪の国となるためには何にでも手を貸す。もちろん、アメリカの政府、諜報機関、司法、政治、宗教および経済の制度や、軍事や、これらすべての関連するテロと全く無関係な、品位のあるアメリカ人は例外だが、こうした人々は残念ながら少数派に過ぎない。その事ははっきり言っておかねばならない。すでに戦争を予想させるあらゆる兆候が揃っているが、さもしくもアメリカ合衆国大統領ジョージ W. ブッシュは神をゲームに引き入れるという途方もなく偽善的な厚顔ぶりを見せている。アメリカは神の委託により、世界の平和と秩序を配慮する責任があると言い、このあらゆる点で無責任で独善的な輩は神の復讐の手を自認し、それどころか自分は全能者であると自惚れているのである。彼はとんでもない出鱈目と戦闘的な態度で世界中の人間を扇動し、サダム・フセインによってアメリカの国家安全だけでなく、世界の残余の国々も脅かされているなどと主張する。しかしこうした出鱈目の主張は、できるだけ多くの同盟国をアメリカに、従ってブッシュの側に引き入れ、NATO同盟国にアメリカに対する支援義務を果たさなければならないことを思い出させるためのものに過ぎない。そのためにブッシュは手段を選ばず、従って彼と彼の同調者や支持者は繰り返し新たな脅威のシナリオをでっちあげているのである。たとえばサダム・フセインはイラクの私邸に巨大な化学兵器庫や生物兵器庫を隠していたが、その後国連査察団が来る前に隣国シリアに移したなどと言われる。さらに、イラクの近隣諸国への侵攻計画があると言い、またイラクはサダム・フセインの後見でテロリストを養成し、国内で容認しているという。そのうえ、彼は国際テロリズムを支援し、資金援助をしているともいう。こうしたすべての主張に対し、ブッシュとその一味、および国連査察団や共にほえる他のアメリカ友好国の権力者たちも、今日に至るまでいかなる証拠も提出していない。しかし、たとえば国連の側から戦争に対する同意を出すように国連を納得させるために、そのような証拠が提出されたとしても、それらの証拠は偽造されたものではないというには疑わしく、ブッシュとアメリカがイラクに対する戦闘を開始できるようにするためのものでしかない。

周知のように、イラクでは兵器査察団がどこでも自由に立ち入ることができるが、すでに知られた申告済みの兵器システムの外には何も発見されていない。しかもそれらの兵器システムは、80年代にアメリカ合衆国自身によって当時の同盟国イラクに供給されたものである。しかしこうしたすべてのことも、分別を失った憎しみと、変節した不安や臆病や復讐欲に駆られたアメリカの無責任な国家権力者ジョージ W. ブッシュの考えを改めさせることはない。だからブッシュは世界中が彼とその戦争扇動に抗議しているにもかかわらず、自分の狂気を推し進めているのである。アメリカ合衆国でも多くの声が上がっているが、ブッシュはそ

これらの声も、また彼が「ならず者国家」と呼んだ国々に対するブッシュ戦争で予想される膨大な犠牲者の数もいっさい無視している。それどころか、ブッシュの狂気によって第三次世界大戦が勃発しかねないということを、このアメリカ合衆国大統領はその愚かさ、憎しみ、無責任、不安、臆病、権力欲、独善、不遜、復讐欲、そして自己神格化のために認識できないのである。ここには、アメリカ軍は戦場で最新のアメリカの超近代的な武器を試すことができ、そのうえアメリカの軍需産業を活気づけ、それによってアメリカ自身にも莫大な利益をもたらし、失業を大幅に減らすことができるという理由も働いている。それは、1945年アメリカが広島と長崎に原爆を落として壊滅させたときと同じである。それはおよそ5年間にわたって準備された企みであり、原爆投下による報復攻撃を行うことができるように、日本人は事実上アメリカにより、真珠湾を爆撃するよう強いられたのである。その結果、アメリカは効果的な核兵器実験を実施することが可能となった。これは今日までアメリカでも、世界のその他の国でも国民には秘密にされている事実である。

が、このほかに石油もある。イラクは実際に世界最大の産油国の1つだからである。そしてまさにアメリカは、自国の石油埋蔵量が乏しいため、外国からの石油供給に最大限依存しているのである。イラクに対して戦争を仕掛けてサダム・フセインを倒し、世界最大の石油資源に対する権益を確保することもまた、ブッシュとアメリカにとっての理由である。このためにはアメリカは手段を選ばず、イラクの亡命政治家やイラクで生活している協力者の力も借りようとしている。こうした連中はいつでも見つかるものだが、彼らは自分たちの疑わしい権力のために「民主的な」政府を作り、アメリカと手を結んで政権を取った暁には自分自身が邪悪で無責任な支配を行うつもりなのである。そして彼らはこれを実現するために、その都度アメリカ大使や、アメリカの諜報機関や、さらには直接ワシントンに指示を仰いでいる。実のところ、ブッシュとアメリカがイラクで戦争したがっている理由は、民主主義を建設するためでもなければ、人権を導入するためでもない。これは北朝鮮による国連監視員の追放と核兵器開発計画の継続の一事によっても証明される。幸いにも北朝鮮はまさに石油埋蔵量もなければ、ブッシュとアメリカが戦争と国の保護によって奪って割りの合うようなその他の重要な資源もないのである。

ジョージ W. ブッシュがNATO同盟国に、イラクに対する無責任で犯罪的な戦争、あるいはその他類いの恥知らずで節度のない犯罪的な冒険や動員に加担するように呼びかけることは、大きな危険をはらんでいる。無責任な国家権力者（たとえばヨーロッパつまりEUの国家権力者）がブッシュとアメリカの犯罪的な戦争の策謀に乗れば、全ヨーロッパにとんでもない影響を与えることにもなり、最後にはそこから第三次世界大戦が勃発して、全世界に阿鼻叫喚の恐怖と悲惨をもたらすのである。

そして私ビリーは、スイス人として言わなければならない。多くの政治家やスイス市民はもう何年も前からEUおよびNATO加盟に色目を使っているが、これらの色目使いたちは、もし実際にスイスがNATO加盟国であったなら現在どうなっているか一度想像してみるべきある。アメリカは、またNATO自身も、無責任で犯罪的な事柄のためにスイスの男たちが戦場に赴き、アメリカの世界支配欲のために命を落とすようになることもためらわないだろう。そして我々の子供や孫もそうなるであろう。国連に加盟することだけでもスイスの中立は途絶えるであろう。なぜならば、スイスは場合によっては現在のように戦争が差し迫っている状況下で、戦争すべきかどうかの決定に参画しなければならないからである。しかも国連は戦争すべきであると決議できるのであるから、このことは平和を創出し、また平和維持を原則とすると称する組織の意義にあらゆる点で矛盾する。国連はこの原則と相いれないどころか、正反対である。実際、スイスが国連加盟国となるように国連加盟を支持したすべてのスイス人はなんと愚かであることか。すべてのスイス人にとってスイスの中立を維持することは至上命令であるべきだが、これが国連加盟によって怪しくなったのは今や現実が証明する通りである。なぜならば、国連はいつでも戦争を指令したり、支持できるからである。そしてまさにこれこそスイスの中立性に反する。なぜならばそれによって、原則としてあらゆる戦争を防ぐことを目指すべき能動的な平和政策が踏みにじられるからである。

アメリカ合衆国の戦争犯罪

アメリカ合衆国の戦争犯罪は、アメリカ建国このかた数多く記録されているが、それについて取り沙汰されたことは一度もなく、全く反対にすべてが些細なこととして粉飾され、それは絶対に必要だったとか、純粹な非常防衛だったとか、アメリカの国家安全にとって必要だったなどと言われてきた。このようにアメリカ合衆国は外国に対する戦争によってジュネーブ協定にも再三違反し、それどころか、たとえば60年代と70年代のラオスにおけるように、中立国として認められている国々に戦争を仕掛けた。この戦争は大規模な爆撃によって行われ、無数の命が犠牲になったが、女や子供など多数の避難民も爆弾テロによって情け容赦なく犯罪的に殺された。たとえばある洞窟には女性や子供や老人473人が逃げていたが、戦闘爆撃機に攻撃されて爆弾が投下され、避難民は全員識別できないほど焼け焦げた。爆弾によって洞窟内では凄まじい火炎が発生したため、恐怖の現場に再び立ち入ることができたのは3日後のことであった。

ラオスへの爆弾攻撃は合計数年間に及んだが、その間に爆撃機は50万回出撃し、合計200万トンの爆弾を投下した。この事実について全世界は何も知らされていないが、それはアメリカ合衆国がこの犯罪的な戦争を、誰も知ってはならない「秘密戦争」として行ったからである。この爆弾テロで、アメリカ空軍は在来型の爆弾を投下しただけでなく、それらの多くは爆発せず不発弾として地中に潜り、今日でもそれらが爆発すると多くの人間の命を奪うのである。実を言うと、このとき多くの新しい種類の武器が試され、無数の危険なクラスター爆弾が投下された。クラスター爆弾というのは、爆弾の中にさまざまな小型爆弾を詰めたものである。大きさはいろいろで、一番小さいのはテニスボール大であるが、地面に当たって破裂しなければ、数十年後でもほんの少し触れただけで破片やボールベアリングのボールを飛び散らせる。ラオスでは今日もそれによって多数の人間が死んだり、不具になったりしているが、アメリカがそれらの爆弾を使用した他の多くの国でも同様のことが起きている。

アメリカはラオスだけでなく他の国々でも無防備の村民を攻撃して殺戮したが、ラオスの爆撃により今日まで行われたあらゆる戦争の歴史の中で最も残酷な1ページを刻んだ。しかもアメリカは自分たちが昔から犯してきた戦争犯罪に対して一度たりとも責任を取ったことはなく、臆病にもそのことから逃げ出し、自分たちが殺害し、爆撃し、そしてその国とその国が築き上げた財産を破壊した当の人々に常にすべての罪を転嫁してきたのである。全人類にとってアメリカの戦争犯罪はいよいよもって十分であり、すべての諸国民は一致団結してアメリカの出過ぎた振る舞いをたしなめ、その誇大妄想的で独善的な世界制覇の態度に道理をわきまえさせるべきであろう。

セミヤーゼ・シルバー・スター・センター、2003年2月1日、15時47分

ビリー

FIGU 特別公報 第9巻第2号 (2003年2月) 速報版 無料
FIGU-SONDER-BULLETIN, 9.Jahrgang, Nr.2, Feb. 2003

発行日 2003年3月15日 ©

監訳 フィグ・ヤーパン

翻訳 明瀬 一裕

発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)

住所 〒192-0916

東京都八王子市みなみ野3-11-2-305

電話 0426 (35) 3741

FAX 0426 (37) 1524

URL <http://jp.figu.org/>

E-mail jp@figu.org

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複写複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。